

IV 特別支援教育研究連合 各研究部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「たしかな専門性を土台とした新たな学校づくり」

2 主な研究・活動の内容

一昨年度までの研究で、各発達段階に必要な指導内容や指導法を「継承していくべき専門性」という視点で情報を共有し実践に結びつけた。本年度は、令和元年度から2ヶ年計画で行ってきた研究の後半となり、一昨年度までの研究及びこれまでの教育実践を土台としながらも、これからの時代に対応した教育活動の在り方について研究することとした。

また、これまでと同様に、視覚障がい教育を実践している明星視覚支援学校と2校の弱視特別支援学級が本県の視覚障がい教育の充実を目指し、情報共有や連携のあり方を模索すると共に、幼児児童生徒の実態に合わせた指導の在り方について研究していくことにした。特に、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、弱視特別支援学級との連携の在り方、また例年開催している本部会の全体研修会の形態や内容についても新たな取組を模索することとした。

(1) 合同研修会の形態の工夫

視覚障がい教育についての研修の場を確保し、最新の情報を発信していくことも本部会の一つの役割である。例年、弱視特別支援学級担任が明星視覚支援学校へ来校していたが、今年度は以下のように合同研修会を企画した。

① 第1回合同研修会「授業参観」〈6月〉

昨年度末より、弱視特別支援学級担任より視覚支援学校における授業参観の希望が出ていたため、実現に向けて検討した。遠隔会議システム（以下ZOOM）を活用し参観と事後研究会を行った。明星視覚支援学校がホストとなり弱視特別支援学級担任へZOOMのIDとパスワードを電話で伝達し繋げた。互いの情報担当職員とも連携を図ることでスムーズに行うことができた。参観した職員からは、弱視児童へ必要な視覚補助具や児童に合った配慮事項が具体的に分かったと、今回の成果が明らかになった。

② 第2回合同研修会「視覚障がい教育研究部会夏季研修会」〈6月～8月〉

例年、外部講師を招聘した研修会を開催しているが、本年度はこれまで明星視覚支援学校で行われた研修会の記録（DVD）を個人で視聴することにした。係が事前に視聴可能なDVDを整理・準備し、本部会組織の職員全員に20の項目から視聴したいものを選んでもらい、係で作成した視聴計画に沿って全職員が視聴後、アンケート提出によってこの研修会の参加を確認した。初めての試みで係の負担があったものの、各自が研鑽したい内容（DVD）を提供できたこと、また視聴期間の中で各自の都合のよい時間に視聴できたことが主な成果である。ただ、中には音声聞き取りにくいものもあったため今後の研修会記録の際に注意が必要であることや、他のオンライン研修会の活用等さらにオンラインや情報機器を活用した研修会の可能性を広げることが課題である。

③ 第3回及び第4回合同研修会〈8月及び9月〉

第1回目同様にZOOMを使用した研修会を行った。主に、弱視特別支援学級担任より1学期を経て困ったことや2学期以降の指導において不明なことや不安なことを協議した。本部会事務局長が情報収集した上で、翌月情報交換を行った。明星視覚支援学校や他県での取組を伝達後、対象児童への指導法等を協議した。

④ 第5回合同研修会〈2月〉

この研修会もZOOMを使用して行い、本年度の取組を中心に協議した。また、在籍する児童が本年度卒業となることから、現在2つの小学校にある弱視特別支援学級は閉級となることを確認した。

(2) 教材教具研修会

手作り、既製品を問わず、指導に効果的であった教材を展示し、閲覧し合った。例年、弱視特別支援学級担任も明星視覚支援学校に来校し参加しているが、本年度に関しては明星視覚支援学校職員のみで開催・閲覧した。見えづらさに配慮した教材や触って学べる教材等、職員同士が互いに学び合う場となった。

(3) 情報共有の工夫

① 研修資料、動画の提供

明星視覚支援学校が新任者を対象に行っている視覚障がい教育の基本的事項についての研修（基本研修～眼疾、視覚障がい教育、点字2回、教育機器2回、歩行2回、弱視教育、進路、計10回）について、資料と動画に残し、自主研修や寄宿舎研修および弱視特別支援学級の職員等が有効に活用できるようにした。

② 職員図書の実践

年度初めに視覚障がい教育関連の図書について紹介した。その後は、研修部室に保管することで自由に書籍を閲覧できるようにし、職員が研修できる環境の整備を行った。次年度は、月に一度書籍の紹介をする等工夫し、職員に視覚障がい教育関連の図書をさらに身近に感じてもらえるような取組を行いたい。

(4) 明星視覚支援学校及びサテライト会場における情報提供活動

明星視覚支援学校、サテライト会場（しろやま支援学校）において、視覚障がい児（者）の生活や学習に有効な福祉機器類を展示し、個人や関係各所への情報発信を行った。

(5) 各研究班におけるテーマ別の取組、研究大会への参加

明星視覚支援学校を中心に下記の研究班に分かれて研究・実践に取り組んだ。

- ・ 視覚障がい幼児の豊かな発達を促す教育課程～ねがいと思いを形にした幼稚部教育の在り方を探って～
- ・ みやもう入門小学部版の深化～さらなる活用を求めて～
- ・ 中学部における学力向上を目指した指導の実際～生徒の実態に応じた点字力の向上と学習習慣の確立について～
- ・ 新学習指導要領を基にした本校の課題分析～総合的な探求の時間の指導・支援の在り方に関する研究～
- ・ 本校における鍼施術時の感染症対策について～実習での実践と課題の分析を通して～
- ・ 卒業後を見据えた生活スキルの向上を目指す支援・指導の在り方

～一人暮らし体験の取組から～

3 主な研究成果

これまでは、物理的な距離によって本部会の加盟校同士が連携し共に活動することの難しさがあったが、遠隔会議システムを活用した研修会を行うことによって片道2時間かかる移動を削減でき、必要なタイミングで合同研修会が開催できた。特に参観授業については、移動時間の削減はもちろん参観側である弱視特別支援学級担任不在の間（ほぼ一日）の補充の軽減も図ることができた。年度初めは情報機器や環境の不整備で電話連携が主であり、4月に行った代議員会では事前に資料を送付し意見を把握した上で開催したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の視点に立った連携の在り方を探っていく中で様々な成果を得ることができた。また、明星視覚支援学校を中心とした研究班では、多岐に渡る研究を2カ年計画で進めてきた。これまで行った研究の実践を目的とした研究、新学習指導要領に対応した研究の他、幼稚部においては視覚障がい幼児の発達を促す豊かな教育活動の実現を目指す研究を行っている。今年度の取組を踏まえ、次年度はさらに今後の宮崎県における視覚障がい教育の未来を見据えた課題研究に取り組んでいきたい。

聴覚・言語障がい教育研究部会

1 研究主題

「新しい時代を豊かに生きる力を育む聴覚・言語障がい教育を目指して
～主体的・対話的な学びに導く指導の在り方～」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

① 活動計画

ア 6月26日 第1回学校代表者会・研修会

会場：宮崎県教育研修センター

(ア) 総会

(イ) 事例発表 日南市立 飢肥小学校 須崎 典子 教諭

テーマ 「『吃音のある自分と向き合う児童』にどう向き合うか

～人と人をつなぐ あたたく しなやかに かるやかに～」

イ 8月19日 第2回研修会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

会場：都城さくら聴覚支援学校

(ア) 講演

演題「手話言語条例と聴覚障がい者の社会参加の歴史」

講師 宮崎県聴覚障がい者センター 満平 一夫 氏

(イ) 芸術活動ワークショップ

指導者 湯浅 義昭 教諭（都城さくら聴覚支援学校）

② 各大会への参加

ア 第54回 全日本聾教育研究大会 埼玉大会（オンラインでの参加）

令和2年10月8日（木）から9日（金）まで

イ 第44回 九州地区難聴・言語障害教育研究会 大分大会

令和2年 7月30日（木）から31日（金）まで

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ 第25回 九州地区聴覚障害教育研究大会 北九州大会

令和2年10月29日（木）から30日（金）まで

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため紙面発表のみ

3 主な研究成果

- 第1回学校代表者会・研修会では、吃音のある児童がグループ学習でいろいろな仲間に出会い、自分の障がいについて客観的に見つめ、考えることで、肯定的に捉えられるようになった様子を知ることができた。子供たちにとって、同世代の仲間の存在が大きな支えになることを改めて確認することができた。
- その他の研究大会はほとんど中止となったが、コロナ禍において聴覚障がいや言語障がいのある子供たちに何を伝え、どのような力を身に付けさせるべきかということ、それぞれの学校現場で話し合う機会となった。今年度の経験を今後の教育活動に生かしていきたい。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回事務局会	4月16日(木)	大宮小学校	・事業計画 ・九州大会中止について
第1回研究部会	6月23日(火)	大宮小学校	※理事会を中止し、研究部会として振替 ・九情研宮崎大会の提案資料検討 (発表者：藤田司先生)
第48回九州地区 情緒障害教育研究会宮崎大会	7月30日(木) 31日(金)	ニューウェル シティ宮崎	※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、理事研修会・記念講演・分科会の全ての会の中止
第2回研究部会	8月24日(月)	Zoomを使ったオンライン会議 ホスト…佐土原小学校	・研究集録提案資料検討 ・今後の事業計画について
第2回事務局会	9月17日(木)	大宮小学校	・研究集録作成検討 ・今後の事業計画について
事務局運営会議	10月29日(木)	宮崎港小学校	・事務局会打合せ
第3回事務局会	11月17日(火)	Zoomを使ったオンライン会議 ホスト…佐土原小学校	・今後の事業計画等について ・研究集録作成について
事務局会運営会議	12月17日(木)	大宮小学校	・研究集録作成作業
第4回事務局会	1月14日(木)	大宮小学校	・研究集録まとめ ・第1回理事会に向けて
第1回理事会	2月16日(火)	大宮小学校	・研究集録配付等 ・理事会まとめ
第5回事務局会	3月2日(火)	大宮小学校	・本年度の反省 ・次年度の事業計画について

3 主な研究成果

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、各会議が中止となった。そのため、Zoomを使用したオンラインの打ち合わせや会議に挑戦した。宮崎市内の学校を中心に行ったが、今後は県内に広げたい。オンラインによる打ち合わせや会議、情報交換や研修についても実施していきたい。

(1) 成果

令和2年度第48回九州地区情緒障害教育研究会宮崎大会が中止となったが、提案者の発表資料を取りまとめ、九州各県や県内の各学校に配付できるように研究集録の作成を行った。

また、宮崎県の発表者である、藤田 司 指導教諭のレポートについて検討し、自閉スペクトラム症の児童生徒への支援の在り方について研究を進めることができた。宮崎県の提案発表については、令和3年度の夏季研修会で県内に発信予定である。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応に苦慮する状況もみられる。教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
8月19日	第1回理事会及び総会（書面議決）	各学校
11月27日	第2回理事会	みなみのかげ支援学校
2月 5日	第3回理事会予定	みなみのかげ支援学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「長崎大会」令和2年10月29・30日
参加予定 4名
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「長崎大会」令和2年10月29・30日
参加予定 4名

提案発表者

◇第9分科会 教科別の指導「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」

提案発表者 県立児湯るびなす支援学校 教諭 門村 裕香

助言者 宮崎県教育庁 特別支援教育課 指導主事 藤原 修也

◇第10分科会 キャリア教育「キャリア発達を促すキャリア教育」

助言者 宮崎県教育庁 特別支援教育課 指導主事 永田 賢吾

※ 今回の研究大会は、第59回全日本特別支援教育研究連盟全国大会と第54回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会を合同開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

3 主な活動の成果

本年度から2年に一度の研究大会開催を行うにあたり、県北部（延岡・西臼杵・日向）、県西部（都北・西諸）、県南部（日南・串間）、県央部（宮崎・東諸・東児湯・西都）の各特別支援学校が担当校として、研究会の運営を行っている。例年6月に実施している理事会（総会）は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止し、8月に書面決議にて実施した。また、本年度から令和2年・3年度の担当校は日向ひまわり支援学校が運営をすることに決定しており、研究大会に向けての準備を進めている。11月に第2回理事会を実施し、同時に研究大会実行委員会を開き、日向ひまわり支援学校が次年度の研究大会の概要説明を行った。昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモート形式での研究大会を計画している。実施の会場費や講師招聘旅費などを考え、予算を20万円として実施していく。今後の運営がスムーズに行くよう、内容を検討したり、関係機関との連携を図ったりしながら、本部会の充実を図っていきたい。

令和2年度 病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「 新学習指導要領を踏まえた授業づくり 」
～幼児児童生徒の意欲を向上させ、主体的に学べる授業づくり～

2 活動内容

(1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容
5月 7日	病弱教育研究部会 理事会・総会
7月26日	病弱教育研究部会 理事会 (中止)
8月 6日 7日	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 愛知大会 (中止) 〃
8月 7日	病弱教育研究部会 夏期研修会 (中止)
8月20日 21日	九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 長崎大会 (紙上発表) 〃
2月10日	病弱教育研究部会 理事会

(2) 病弱教育研究部会夏期研修会

○新型コロナウイルス感染症対策のため、計画立案執行の中止措置を執った。

3 主な研究の成果

(1) 成 果

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、計画あるいは立案中の研修や研究大会が中止になった。

(2) 課 題

I C T機器の活用などを研修して、新たな連携構築に勤しみたい。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

確かな実態把握に基づいた、一人一人の多様な教育的ニーズに応じた授業づくり

2 主な研究・活動の内容

(1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

期日		肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月	27日(月)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第1回準備委員会
5月	26日(火)	第57回九肢研(沖縄大会) 役員会及び総会 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止	
6月	2日(火)	第1回 理事会・代議委員会	
	12日(金)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第2回準備委員会
7月	10日(金)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第3回準備委員会
8月	7日(金)	第23回肢体不自由教育研究大会 第2回理事会・代議員会 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止	
	21日(金)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第4回準備委員会
9月			
10月	14日(水)～ 21日(水)	第57回九肢研(沖縄大会) <Web上での開催>	
11月			
12月	11日(金)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第5回準備委員会
	11日(金)～ 25日(金)	第66回全肢研(埼玉大会) <Web大会開催>	
1月	18日(月)	第3回 理事会・代議委員会 部会誌第25号発行	
2月	25日(木)	第58回九肢研(宮崎大会)	第24回県肢研 第6回準備委員会
3月			

3 主な研究成果

本年度は、肢体不自由研究部会と次年度に宮崎県で開催される第24回九州肢体不自由研究大会宮崎大会に向けての準備委員会が行われた。準備委員会では、コロナ禍のため、どのように実施していくか検討を重ね、Web開催にて実施する方向が決定した。8月7日の開催予定であった第24回肢体不自由研究大会が、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となった。午後から予定していた教材研究会については、各校にて、半田ごてを使った教材作成を行ったり、段ボールで書見台を作成したりし、授業の中で活用し、実践を積み重ねている。今後も助成金なども計画的に運用し、職員の資質向上および児童生徒の日々の教育の充実を目指した専門性を向上できる部会となるよう努めていきたい。